

備前市施策評価シート

(平成22年度事業)

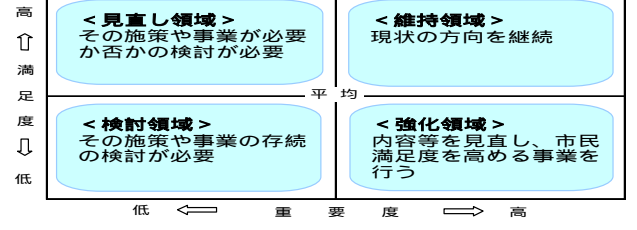
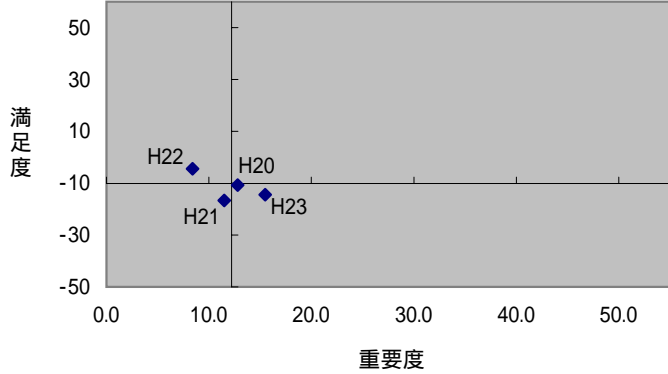
施策名 (小項目)	ため池・治山対策	コード	01-03-02	作成者	役職 農林水産課長
		作成者	氏名 横山雅一	電話	0869-64-1831
		このシート作成に要した時間		2.0 時間	

備前市総合計画の内容から記載する

政策の体系	基本目標(大項目)	安全で快適に暮らせるまちづくり
	基本施策(中項目)	災害に強いまちづくり
対象と目的 (誰のために、何のために)	老朽化したため池を改修し、農業用水の効率的な管理を図るとともに、堤体決壊による下流域への災害防止に資する。荒廃林地、危険渓流や山地災害危険区域での集中豪雨による土砂災害の防止を図り、山地危険区域の周辺被災対象者の災害防止に資する。	
現状と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	ため池の改修等は年次的に事業実施しているが、全体数が多く、未整備の箇所も多く残っている。また、地元管理者の高齢化に伴い管理不足の池も多いため、今後も整備を推し進めて行く必要がある。治山事業については市の総面積の80%が山林であり、所々に荒廃林地や危険渓流、山復崩壊地等が土砂災害の原因となる恐れがあるため、本事業により予防・復旧を進める必要がある。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民との連絡を密にし、的確な情報収集を行い危険箇所の把握をする。 ため池及び山地危険箇所の整備を年次的に進める。 	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H20	H21	H22	H23
重要度(%)	12.8	11.5	8.4	15.5
満足度(%)	- 10.8	- 16.7	- 4.4	- 14.5



調査結果に対するコメント、市民の反応等
 [調査対象でない施策は、市民の反応等]
 市民の安全安心に対する意識が高まり、ため池や治山施設の重要度が高まっている。しかし、満足度は低い結果となっており、計画的に安全対策を進めていくことが必要と考えます。

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H20	H21	H22		H23	H28
ため池整備事業(県営事業)	目標	箇所 31.9	31.9	33.3	H21 43池 / 135池	H23	32.5
	実績	箇所 31.9	31.9	32.2	H22 43.5池 / 135池	H28	33.3
	達成率	% 100.0	100.0	96.7	H23 43.9池 / 135池 H28 45池 / 135池	-	-
	ベンチマーク				県営事業 受益面積2ha以上 135池	-	-
治山事業(県営)	目標	箇所 38.4	38.8	40.1	治山事業実施箇所 / 山地災害危険箇所	H23	40.9
	実績	箇所 38.4	38.8	40.1	H22 95箇所 / 237箇所	H28	42.2
	達成率	% 100.0	100.0	100.0	H28 100箇所 / 237箇所	-	-
	ベンチマーク					-	-
参考指標	目標					H23	
	実績					H28	
	達成率	%				-	-
	ベンチマーク					-	-
参考指標	目標					H23	
	実績					H28	
	達成率	%				-	-
	ベンチマーク					-	-

施策構成事務事業の評価

施策を構成する事務事業	事務事業評価結果 A~E (高-低)	細事業	事業分類	事業費等(単位:千円,人)										施策への貢献度	
				平成20年度				平成21年度			平成22年度				平成23年度
				直接事業費	人件費	人工数	当	直	人	工	直	人	工		直
1	ため池整備事業	B	県営ため池整備事業	単市	0	1,010	0.12	3,187	464	0.05	24,000	643	0.08	20,000	
2	治山事業	B	県営治山事業	単市	0	865	0.11	0	1,492	0.04	0	1,982	0.25	0	
				平成20年度	0	1,875	0.23	3,187	1,956	0.09	24,000	2,625	0.33	20,000	

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
岡山県土木部	砂防事業	危険渓流、山地崩壊地については、諸条件により砂防事業でできることもあり、調整が必要である。

施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由(なぜ、そのランクと評価したのか)	
<成果指標の妥当性> 1 施策の目的・成果を表現しているか?	4	県が事業主体であるが、市が積極的に地元調整等行うことにより、早期に事業化する可能性が高いことから市の役割と考えます。	
<事業構成の妥当性> 2 手段は最適か?	5	選択要件を満たしておれば、市の負担が少なく済むことから、補助事業を採用し実施することが適当と考えます。	
<施策の有効性> 3 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	4	中・長期的目標を達成できるよう、県と調整を進めることは有効な施策であると考えます。	
進行年度(H23年度)の取組内容(課題解決状況)		・県営ため池整備事業中田池は、H21に着手しておりH24に完成する予定である。 ・県営土砂流失防止林造成事業で、H21から実施している佐山地区山火事跡を引き続き整備する。また、三石小学校裏山の危険箇所を県営治山事業で整備する。	
翌年度(H24年度)の取組目標		・県営ため池整備事業として、福田地区の大谷中池整備の調整を行っていきたい。 ・治山事業としての地元要望を調査し、緊急性の高い場所から県に要望いたします。	
二次評価者コメント		市内約350か所のため池については、年次計画により改修を進めているが、近年の異常気象や突発的な補修も増加傾向となり対応に苦慮している。ため池管理者との連絡を密にし、防災、利用の両面からマニュアルによる適正な維持管理に努めてください。	
役職	産業部長		
氏名	竹林 幸一		

基本施策への貢献度
4 やや高い